

この街で出会いました

張 澤琳

私は中国生まれ。日本で暮らして、もうすぐ六年目。千葉科学大学四年生、福祉の危機管理に関する卒業論文を書いています。さらに専門的に研究を続けるため、来春、関西の大学院へ進学する予定です。

私は銚子市に住んでいますが、この進路を決めるきっかけを与えてくれた街が、実は、旭市なのです。大学二年まで、旭市がどこにあるのか知りませんでした。それなのに、知り合いは旭市の方が銚子市よりもたくさんいます。文化の杜公園でバイト先の同僚に偶然会って驚いた帰り、コンビニに寄るとボランティアの知り合いがいたこともありました。決して忘れられない小学生のときの出来事があります。

その人は手をいっぱい動かし、言葉にならない声を出し、私に何かを伝えようとしていました。でも私には全然分かりません。どうしたらいいのか、なんだか怖くなって、走って家に帰りました。何が起こったのか、とても気になり、両親

に話してみました。父は「ろう者が手話をしたんだ」と教えてくれ、私は手話を習い、ろう者との楽しい会話の時間を過ごした経験がありました。

大学二年生の春、この経験が蘇り、看護学部の先生から手話が学べる科目を選択しました。大学の手話サークルにも入って、一年後、手話の資格も取れました。手話通訳ボランティアをしたいと考えたけれど、残念ながら、銚子市内にはありません。サークルの友だちに相談して、旭市の手話サークル若葉の会を紹介されました。大学院受験で中断しましたが、障がい者の外出支援をしている「NPO法人ふくろう」でアルバイトをしています。

「旭市」は手話では「日の出」です。左手を伸ばして水平線に見立て、右手の親指と人差し指で作った輪を左手の下から上げて、日の出です。毎日、天気は変わるし、太陽の昇る位置は少しずつ変わります。同じようにこの街の風景も、移り変わってゆくのを私は楽しんでいきます。

昨秋、初めて「ふくろう」がある蛇園に来ました。彼岸花がたくさん咲き、まるで夢の世界のような風景に強い印象を受けました。今秋、同じ風景の道を歩きながら、障がい者の外出支援をしたことを思い出します。

鎌数伊勢大神宮への初詣、イチゴ狩りとおいしい味、蛇園の出清水地区での河津桜や菜の花の花見、袋公園の鯉のぼり、飯岡花火大会、スポーツ森公園の紅葉の並木の散歩。

この街にとって、私は来春にはいなくなる旅人に過ぎません。何故、私はこんなに惹きつけられるのでしょうか。ユニバーサルデザインのメイス博士は「人生の中でいつか障がいがある」と言いました。日本語が分かるまで、外国人は障がいがあるのです。でも、この街は障がいにやさしい街でした。

寛容な文化が私の心に刻まれ、大学院での福祉の研究に活かせると感謝しています。